

先月おこなわれた北陸私研の報告が福井をすすめる会から届きましたので掲載します。はじめての「三者(四者)合同討議」は、これこそが「理想の学校」というとりくみでした。秋の父母懇全国交流集会に向けても、大きな一歩を踏み出しています。

福井県私学の公費助成をすすめる会

すすめる会NEWS

Issue No. 8 | 2024 3月号 | 北陸私学研究集會

感想
交流

北陸私研 四者で討議中

2月17、18日に北陸私学研究集會が開催されました。18日の分科会は4つに別れ、B分科会では父母のお二人のレポート発表を基に、感じたことや自身の経験について話したり、「つながり」について考え参加者どうして話し合ったりしました。「活動自体が未来を創る活動であると感じた。未来を創るために、自分にできることを少しずつ行動に移していきたい」との感想がありました。C分科会では仁愛女子高校より、生徒会自主活動、校則改定について報告がありました。

さらに、B・C分科会の参加者が集まり、生徒、父母、教師、大学生の四者が

「過干渉はどこからだろう?」「理想の学校とは?」をテーマに合同討議を行いました。高校生より、過干渉についての討議では「自分で考える前に周囲が決めてしまうと過干渉を感じる」、理想の学校の討議では「生徒が自分たちでルールを決めて、自分たちで守るのが理想なのでは」などの発言がありました。異なる立場の人たちと話しをすることは大切で、多くの発見があり、そこから学ぶことができるという感想が多くありました。

全国私教連の新井さんは、「この場では、自分の親や子どもには言えないことが言えたのではないかな。ここでなら繋がり合い、語り合うことができる。三者が繋がり、語るということは新しい学校ができていること、「理想の学校」なのだ」とまとめられました。



合同討議に参加した皆さんの感想(一部抜粋)

生徒Aさん(仁愛高校)

「三者合同討議」をしようとなったのは私たち仁愛の活動の中で、三者で学校をつくっていくことの重要性を学んできたからです。討議の内容はすべて生徒で考えました。原稿も進行もすべて生徒です。「こんにちは」と言えばとても大きなレスポンスがあって、ここでもういい会になると思いました。そして討議、私の班でも皆さん積極的に参加していただけてました。過干渉の討議にて「そこは高校生の意見が必要だな」と言ってくれました。高校、高校生の意見が求められていること、とても嬉しかったです。私にはあそこがいたい場所で、やりたいこと、「理想の学校」だったんだと思いました。もう一点思ったことは「三者で討議するという事柄も外に出る」ことが大切だということです。もちろん外に出た方が多くの人に知ってもらえるという良い点があります。しかしそれ以上に、自分の高校で困っていることは外に出して三者で討議することが重要だと思いました。

生徒Cさん(北陸高校)

自分の学校の外に出てみると、こんなにも学びがあるんだ!と、とても良い刺激になりました。言葉に表すことは難しいですが、自分の中にあった固定概念をひとつ壊すことができたように思います。

生徒Nさん(北陸高校)

このような機会は自分の学校で生徒会活動をしているだけではなくなかなかできないのでとても楽しく、良い経験になりました。今日の話合いの内容、意欲を北陸高校にもちがえってきちんとした理想の学校を作るための組織作りに努めていきたいです。

生徒Yさん(高岡第一高校)

校則は地域からの意見や評判を気にして定めていることが多いから本質的ではないという意見がありました。生徒自身でルールを作り生徒全員でそれを守る、生徒自治の体制に変えたらその問題は解決するのではないかなと思いました。また過干渉の問題では子ども、親、先生、生徒の4者が関係しあっていて難しい問題だと思いました。

父母Aさん(富山県)

三者での話す場が自分が現役の保護者のときに、できていたら・・・と思うことがたくさんありました。それでもこれから、どんどん、三者での話し合いの場に参加して、高校生、先生たちの生の声を聞きたいと思えます。今できること、これからの未来のために、どんどん話し合いをしていくことがとても大切ですね。

父母Iさん(新潟県)

高校生のこうしたい!という思いがしっかりあって、それで先生や学校に意見し、保護者もそれに賛同する。三者がそれぞれの立場で話し合える機会は貴重ですね。三者合同会議素晴らしいです。生徒の主張する自由や理想を声を出して学校に伝える事から始まるので、その熱意をあきらめる事なく持ってほしいと思いました。

父母Kさん(富山県)

生徒(子ども)の気持ち、思いを素直に話してくれたことで、私(親)の気持ち思いに気付くことができました。また聞かれるから自分の考えを表現できる時間でもありました。

教員K先生(仁愛高校)

他校の現状や生徒、保護者、教員それぞれの考えや意見を聞き、考えあうことができ、楽しく幸せな時間でした。が、時間が足りない!もっともっとという熱が湧き上がり、共有することが力につながっていくと実感した。

教員S先生(金沢龍谷高校)

私学助成にしても、校則にしても、現状を変えよう、良くしようと思つたらかなりのエネルギーがいります。保護者、先生、生徒にはそれぞれの立場で想いがあり、だから繋がる必要があるのだと思います。今日は学校が違うので、しがらみを気にすることがなく、本音で話すことができました。